

アジア薬科学会議 2017 にて口頭発表

2017年11月21日から23日に中国の厦門で開催された「2017 Asian Federation for Pharmaceutical Sciences (AFPS) Conference」において英語での口頭発表を行いました。AFPSはアジア各国の薬剤学研究者間の学術ならびに人的交流を通じた薬科学研究の発展を目指した学会です。本学会は「Integration, Improvement and Innovation toward Targeted Drug Discovery」というテーマのもと、幅広い分野の研究発表が行われており、様々な研究成果を知ることができました。

私は難水溶性薬物であるシクロスポリン A の生物薬剤学的特性向上に関する研究に従事しており、「Fine Droplet Drying 工法を用いた非晶質固体分散体制剤開発によるシクロスポリン A の経口吸収性改善」という発表演題で発表しました。本研究では、プリンターのインクジェットヘッドを用いた Fine Droplet Drying (FDD) 工法を新規粉末化技術として考案し、その技術を溶解性改善技術の1つである非晶質固体分散体(ASD)の調製法として応用することで、シクロスポリン A の生物薬剤学的特性向上を試みました。本研究は、FDD 工法を製剤技術へ適用した最初の応用研究であり、新規性が高くかつ有益な知見を対外報告および議論することができました。

海外の国際学会での口頭発表という得難い経験の中で、英語での発表や質疑応答の難しさを肌で感じることで、プレゼンテーション能力および英語スキルの更なる向上が必要であると痛感しました。海外で口頭発表できた経験は研究者としての今後の飛躍につながると考えており、このような発表の機会をいただいたことに心から感謝いたします。



薬食生命科学総合学府 薬食生命科学専攻 薬物動態学講座
博士後期課程 3年 鈴木 寛貴